

2026年3月期 第2四半期決算説明会 主な質疑応答

日時：2025年11月6日（木） 17時30分～18時30分

Q：上期の結果は会社計画対比でどうだったか

A：第1四半期は若干厳しめの実績であったが、第2四半期は計画対比で上振れ。上期全体として見ても計画対比でやや上振れの結果となった。事業別では時計事業の計画対比上振れが、EdTech事業とサウンド事業の下振れを吸収した。

Q：時計の地域別の状況は

A：中国を除いた各地域が堅調で、全体で当初の想定よりも上振れた。特に伸びている地域はインドや、ラテンアメリカ。

Q：G-SHOCKとCASIO WATCHのそれぞれの戦略について

CASIO WATCHは非常に好調で、新しいユーザー層を獲得しており、G-SHOCKとのユーザー層の棲み分けも出来ている。今後は高単価化とマーケティング活動により更なる拡大を図っていく。

G-SHOCKについては年末に向けて新商品も出てくる中、メタルを中心にトレンドに合致した商品の発売とG-SHOCKの価値をZ世代中心に再度訴求するマーケティング活動により拡大を図り、G-SHOCK比率の上昇を目指す。

Q：電子辞書とサウンドの今後の見通しについて

A：電子辞書は、営業体制の大幅縮小、また新規モデルの開発中止といった構造改革の実施により、赤字は縮小方向に向かうと見ている。サウンドは全体的に市況も厳しい中で上期計画対比で下振れし苦戦しているが、足元では電子楽器の市況に若干の回復傾向が見られ、下期に極力挽回を図りたい。

Q：米国関税の影響と通期計画について

A：第1四半期決算説明時の想定通り。上期でマイナス20億円、下期でマイナス10億円、通期でマイナス30億円とみている。通期計画について変更はない。